

1. 実況上の着目点

- ① アリューシャン近海から日本の東を通り、北陸地方へ前線がのびている。前線近傍では、上空寒気と太平洋高気圧の縁辺を回る下層暖湿気の影響により、大気の状態が不安定となっており、関東地方では雷を伴い猛烈な雨が降り、群馬県で記録的短時間大雨情報を発表。
- ② 日本の南には低圧部があつてゆっくり西進。南西諸島付近では低圧部周辺の下層暖湿気(南大東島の8日21時の高層気象観測で850hPaの $\theta$ e357K)が流入し、大気の状態が不安定となり、雷を伴って激しい雨を解析。
- ③ モンゴル付近には500hPaで-15℃以下の寒気を伴うトラフがあつて東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は9日朝まで東北南部付近に残る。東北地方～東日本では9日は、この前線の影響や、太平洋高気圧の縁辺を回る下層暖湿気、上空寒気及び日射による昇温の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。東日本では、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒し、東北地方では、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意。落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうにも注意。西日本でも9日は、太平洋高気圧の縁を回る下層暖湿気や日射による昇温の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、急な強い雨に注意。
- ② 1項③の低圧部は、9日朝までには熱帯低気圧となって先島諸島付近に進む見込み。熱帯低気圧の周辺では、下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨の降る所がある。南西諸島や西日本太平洋側では10日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意し、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。また、熱帯低気圧付近では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。南西諸島では、10日にかけて、強風や高波に注意。
- ③ 東～西日本では9日は日本海に中心を持つ高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇して猛暑日となる所がある。熱中症に注意(熱中症警戒アラートを参照)。
- ④ 10～11日には、1項③のトラフに対応し、アムール川下流からオホーツク海に低気圧進み、低気圧からのびる寒冷前線が北海道付近を通過する見込み。前線に向かって850hPaで $\theta$ e336Kの下層暖湿気が入り、上空寒気の影響も加わるため、大気の状態が不安定となつて雷を伴った激しい雨が降る見込み。北海道地方では、10～11日には、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

①雨量(06時からの24時間)：奄美・沖縄120、関東甲信・九州南部100mm。

②波浪(明日まで)：奄美・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。